

早稲田大学 法学部 国語 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	90分(古文1問、漢文1問、現代文2問)
難易度	昨年比、やや難化

〔大問別講評〕

(一) 古文。慶政『閑居友』。

《本文字数:約 1150 字＝昨年より約 300 字増加。設問数:7＝昨年と同じ。》

小問	難易度	コメント
問一	標準	【傍線部理解】a＝文脈から判断する。女が中納言に遠ざけられ、不本意ながら故郷に戻って来たという内容。 b＝「うるせし」は「賢い・気が利く」の意。文脈からも判断できる。
問二	易	【空欄補充】「え…打消」で「…できない」の意。基本である。
問三	標準	【理由説明】船の主からみて、女は自分の主人である中納言の元愛人であることから判断する。
問四	やや易	【理由説明】段落頭に「かくて四十九日もすでに明日になりにけり」とあり、前行に「さて、翌朝」とあるので、四十九日を迎えたのである。
問五	やや易	【傍線部解釈】「あぢきなし」「よしなし」、いずれも重要古語である。
問六	やや難	【傍線部理解】最後の二段落の内容から、傍線部の「袂」が女をあらわしており、「秋」に「飽き」が掛けられていることを読みとる。
問七	標準	【内容合致】ハは第二・三段落、ホは第七段落、に合致する。

(二) 漢文。出典:蘇軾『李氏山房蔵書記』。

《本文字数:322 字＝昨年より 166 字増加。設問数:5＝昨年と同じ。》

小問	難易度	コメント
問八	標準	【空欄補充】第一段落の後半の内容をつかめたかが問われている。「才分(＝才能)」が同じでなくても、求めれば書物からは何かを得られる」という内容である。
問九	標準	【書き下し文】問八と同様に第一段落後半の内容から判断する。「惟」に着目して選択肢をしぼりこみ、文脈から判断するとよい。
問十	標準	【返り点】再読文字「当」に注意。熟語に返り点を付せるかも問われている。
問十一	やや難	【傍線部理解】傍線部は使役形。最終段落の内容をふまえて内容をつかむ。「来者」の意味が分からなくても消去法で判断できる。
問十二	やや難	【内容合致】ホは「目や耳を…くれる」が第一段落に、トは「暇さえ…いって」が最終段落に、それぞれ反する。

〔大問別講評〕

(三) 評論文。「グリーンケアのあり方」について。

出典：崎川修『他者と沈黙 ウィトゲンシュタインからケアの哲学へ』。

《本文字数：約 4300 字＝昨年より約 1600 字増加。設問数：8＝昨年より1問増加。》

小問	難易度	コメント
問十三	標準	【漢字書き取り】B「通曉」は、「よく知り抜いている」という意味。
問十四	やや難	【傍線部説明】文章冒頭から傍線部の次段落までの内容から判断する。ニが大変紛らわしいが、「見つけ出そう」が傍線部の「再建しよう」の言い換えとしてやや不適切。
問十五	やや易	【空欄補充】空欄a・bを含む二文が譲歩構文であることに気がついたか。
問十六	標準	【傍線部説明】傍線部の前段落と同段落の内容から判断する。ハは、「悲しみを新たにできる場所」が不適切。他も容易に消去できるだろう。
問十七	やや易	【空欄補充】空欄には前段落のまとめの語句が入る。各カタカナ語の意味がわかれば難しくないだろう。
問十八	標準	【理由説明】同段落と次段落の内容から判断できる。特に59～62行の「さまざまな話題を媒介として」がポイントである。
問十九	やや難	【理由説明】同段落と次段落の内容から判断する。ニが大変紛らわしいが、「他者のなにげない言葉…」がやや不適切。
問二十	標準	【内容合致】ホは、59～62行の適切な言い換えである。ニは、「先入観なしに…」以下が不適切である。

(四) 評論文。「贈与のモラル」について。

出典：山田広昭『可能なるアナキズム』。

《本文字数：約 4200 字＝昨年より約 100 字減少。設問数：5＝昨年と同じ。》

小問	難易度	コメント
問二十一	やや難	【傍線部説明】傍線部を含む段落と続く三段落の内容から判断する。「相手を害するもの」とは、贈り物を受け取った側に「お返しをする義務」(34行)が生じることを指す。ロが紛らわしいが、「感謝の念」では不十分である。
問二十二	やや難	【傍線部説明】傍線部の三段落後に、「第二の特徴」として「闘技性」の説明がある。ホがやや紛らわしいが、「相手を常に支配し隷属させることを目指して」が不適切である。
問二十三	標準	【傍線部説明】傍線部の次段落の内容と各選択肢を照合する。イ・ニ・ホは、「この威信は気前の良さに反する」が不適切、ロは、「財の消費による威信の獲得」が不適切である。
問二十四	標準	【傍線部理解】傍線部を含む段落内容と各選択肢を照合する。イは「ボトラッチの当事者」、ハは「内戦に」、ニは「局地戦に」、ホは「正規軍と非正規軍の戦闘に」という限定の対象がいずれも誤りである。
問二十五	やや難	【記述】「贈与の第一のモラル」と「第二のモラル」の内容と、それぞれの「第三のモラル」との関係をまとめる。書くべきことは、①第一のモラルの説明(傍線部3を含む段落と次段落)、②第二のモラルの説明(傍線部4を含む段落と次段落)、③第三のモラル(本文最終文)との関係である。第一のモラルが「完全な融合、統合がもつ危険性」の抑止と、第二のモラルが「完全な細分化、個人化がもつ危険性」の抑止と、それぞれ関係することを捉えられたか。

〔総合コメント・今後の指針〕

全体の難易度は、昨年よりやや難化した。例年通り、時間との戦いになる分量である。

大問一は、『閑居友』。鎌倉時代の説話集である。難易度は昨年並み。女と中納言との関係を正確につかめたかどうかで差がつくだろう。

大問二は、『李氏山房蔵書記』。昨年よりやや難化した。知識で解ける設問は少なく、本文の細かい部分まで読みこまないと解けない設問が多かった。差がつくだろう。

大問三は、「グリーフケアのあり方」についての評論文。昨年よりやや難化した。昨年と比べて、本文字数が約 1600 字増加し、かつ、多くの受験生にとってイメージのわきにくい話だったので読みづらかっただろう。昨年同様、空欄補充問題が出題された。

大問四は、「贈与のモラル」についての評論文。昨年よりやや易化した。問二十五は本学部特有の論述問題だが、13・14・15・17・18・19・20・21・22 年に出题されていた〈本文全体をまとめさせるタイプ〉ではなく、〈本文の一部分をまとめさせるタイプ〉だった。ただし、制限字数内にまとめるのが難しく、ふだんから要約のトレーニングをしていなかった受験生は苦戦しただろう。